

公立大学協会

公立大学協会ニュースレター Vol.6/No.2

2011年11月10日発行（通刊第24号）

【発行責任者】奥野 武俊（公立大学協会会長／大阪府立大学長）

【編集責任者】中田 晃（公立大学協会事務局長）

〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-13 虎ノ門吉荒ビル9F

TEL(03)3501-3336 FAX(03)3501-3337

E-mail: jimuj@kodaikyo.jp URL: http://www.kodaikyo.org/

公立大学は 81 大学となりました。

平成23年度 第3委員会の活動について

公立大学協会副会長 第3委員会委員長 浅田 尚紀(広島市立大学長)

今年度の公立大学協会の事業計画の重点課題のうち、第3委員会は「大学マネジメントの課題」と「分野・領域別大学改革支援（芸術系分野の課題）」を担当している。委員会は、9人で構成し、7月25日に第1回委員会を開催した。以下に、今年度の委員会活動の概要を紹介する。

1 認証評価及び公立大学法人評価に関する調査・検討

公立大学法人は、自治体が設置する評価委員会によって年度評価及び中期目標期間の業務実績評価を受けることが定められている。しかし、評価委員会の委員構成や評価方法は自治体毎に異なるため、公立大学法人共通の評価モデルが整備されていないという問題がある。一方、認証評価についても、大学評価・学位授与機構と大学基準協会のいずれを選択するかによって評価の項目や手順が異なるため、各大学がそれぞれ認証機関に対応しているのが現状である。

本委員会では、法人評価委員会の構成、自治体・評価委員会・大学の関係、目的積立金の認定、法人評価における認証評価の位置付け、評価の還元と活用等について調査し、公立大学及び公立大学法人特有の課題を整理した上で会員校に情報提供したい。

2 教育情報公表の推進

文部科学省の「大学における教育

情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」が6月から8月まで計6回開催され、本協会からの特別委員として出席した。本年4月から学校教育法施行規則に沿った教育情報の公表が義務付けられ、大学教育の質の保証・向上と社会に対する説明責任の観点から、教育情報の公表・活用について国公私立大学、短大、高校、企業、大学評価機関等の委員が意見交換を行った。

本協会では、昨年度本委員会において教育情報公表のガイドラインを作成し、組織的に教育情報の公表を進めてきたこともあり、設置形態別で見ると公立大学の対応が最も進んでいる。今後は、全会員校の協会Webへの登録を早期に実現し、定期的な情報更新に向けた課題を整理するとともに、公立大学実態調査の実施とその整理・公表についても検討を進めたい。

3 人事制度に関する検討

法人職員の交流研修については、昨年度からの検討を継続し、公立大学法人間に加えて文部科学省や本協会との人事交流の必要性・実施状況について情報を収集する。

一方、教員の流動性については、過去数年間の教員の転出・転入・退職の状況を調査し、国公私立大学やその他の研究機関との交流実績を分析し、教員の流動性向上に向けた課題を検討したい。



浅田尚紀副会長
(あさだ・なおき)

1995年より広島市立大学情報科学部教授。副学長等を経て、2006年より学長。専門領域は画像情報処理。工学博士。

4 大学の危機管理

入試業務（第2委員会担当）を除く大学運営全体の危機管理体制について、各大学の状況を調査し課題の分析を行う。また、学内外の様々なトラブル発生時の情報共有、指揮系統、役割分担などについて各大学の対応状況を調査し情報提供したい。

5 芸術系分野の課題

芸術大学及び芸術系学部は公立大学の特色の一つである。11大学が参加する芸術部会と連携し、芸術系分野の課題解決に向けた支援を行いたい。

* * *

なお、本委員会が所掌するSDセミナーとして、7月20日から22日にかけて公立大学職員セミナーを、7月28日から8月4日にかけて公立大学法人会計セミナーを実施した。いずれも回を重ねるごとに内容が充実し、参加者からも「公立大学職員が交流する貴重な場であり職能向上に資する」と高い評価を受けている。今後は、SD作業部会と財務会計関連の作業部会を立ち上げ、今年度の総括と来年度の企画に向けて検討を進めたい。

「東日本大震災復興支援学生ボランティア車座シンポジウム ～公立大学が連携した取組報告を中心に～」を開催

10月2日に「東日本大震災復興支援学生ボランティア車座シンポジウム～公立大学が連携した取組報告を中心に～」を開催いたしました(東京グランドホテルにて)。このシンポジウムを中心となって企画した「東日本大震災の復興に係る学生ボランティア等に関する作業部会」の藤田博仁委員から開催報告を、また、同作業部会の竹内正吉主査から作業部会の活動について、ご寄稿いただきました。

シンポジウム開催報告

愛知県立大学 教育福祉学部
准教授 藤田博仁

東日本大震災の被災地や被災者に対し、各公立大学は大勢の震災復興支援ボランティアを派遣してきました。公立大学協会が公表している数字を基に、参加大学や学生数を藤田が集計した結果、32大学・延べ約2,350人でした(平成23年9月20日現在)。参加の報告がない大学もあり、今後正確な人数が把握できれば、その数はさらに増大するものと思われます。

■車座シンポ開催

10月2日(日)、東京グランドホテルで震災復興支援ボランティアに参加した学生を中心に、車座シンポジウムが開催されました。当日は、教職員、学生等、約80人が集まり、大盛況でした。

全体の構成は、最初に岩手県立大学・佐々木民夫副学長より「いわてGINGA-NETプロジェクト」を中心にした3・11以降の同大の取組み状況を中心に報告があり、次いで、8大学

上・下：活動報告を発表する学生



の学生から実際のボランティア活動の内容と活動を通して感じた様々な思いが報告されました。今回の車座シンポは、ボランティア活動に参加した学生の「率直な声」に耳を傾けることを中心に企画されたものですが、目的は十分果たせたと思います。

学生の報告は、それぞれの派遣形態ごとに行われました。福島県立医科大学からは、震災や津波による被災者に対する独自の医療活動、放射能汚染に不安を抱える住民とのふれあい等、生々しい報告でした。宮城大学、兵庫県立大学、大阪市立大学からは、宮城県内を中心に、大学間及び自治体との連携による「傾聴ボランティア」などについての報告がありました。岩手県立大学、静岡県立大学、愛知県立大学、大阪府立大学からは、「いわてGINGA-NETプロジェクト」との連携によるコミュニティ作りを目指した仮設住宅でのサロン活動の報告でした。

シンポジウムの後半は、各パネリストからの意見や提案がありました。文部科学省大学振興課・石橋晶課長補佐からは、文部科学省が示した震災

ディスカッションでは学生からも多くの発言がありました

ボランティアと単位認定について説明を受けました。岩手県立大学・山本克彦准教授からは震災ボランティア活動と教育効果の関係について、愛知県立大学・藤田は震災復興支援における大学の果たすべき意義と役割について、それぞれ提案がありました。

■特別企画シンポへの期待

今回のシンポジウムでは、ボランティア活動を通して、学生が20年後の人生で初めてといっても言い過ぎではない経験を何とか言葉にして力強く発する姿が熱気として伝わってきました。参加者一同、学生の迫力に圧倒される思いでした。今後、学生が発したこのエネルギーを大学教育の現場でどのような方向に導いていくか、正に公立大学の真価が問われている気がしました。

今回の車座シンポジウムが、11月10日の特別企画シンポジウム「震災復興とこれからの大学教育」(大阪国際会議場にて開催)へとつながり、さらに活発な議論が展開されることを願っております。





プレゼンテーション資料より (いわてGINGA-NETプロジェクトの活動「お茶っ子サロン」)

【プログラム】

- 1 開会挨拶 竹内正吉 (大阪府立大学副学長・学生センター長)
- 2 状況報告 佐々木民夫 (岩手県立大学副学長)
- 3 公立大学生による活動報告と問題提起
 - ①「震災直後の医大生としてのボランティア活動」(福島県立医科大学)
 - ②「自治体連携・大学連携による支援」(宮城大学／兵庫県立大学／大阪市立大学)
 - ③「いわて GINGA-NET プロジェクトの取組み — 多くの大学の連携」(岩手県立大学／静岡県立大学／愛知県立大学／大阪府立大学)
- 4 パネルディスカッション

モデレータ：大阪府立大学 竹内正吉 副学長・学生センター長

パネリスト：岩手県立大学 山本克彦 准教授・災害復興支援センター副センター長
 愛知県立大学 藤田博仁 准教授
 文部科学省 石橋 晶 大学振興課 課長補佐
 学生発表者の皆さん

東日本大震災の復興に係る学生ボランティア等に関する作業部会の活動経過報告

東日本大震災の復興に係る学生ボランティア等に関する作業部会 主査 竹内正吉 (大阪府立大学副学長)

本誌前号でも紹介のあったとおり、本作業部会は公立大学協会の震災復興支援特別委員会のもとに設置され、学生ボランティアの派遣支援や学生の復興支援活動の教育的効果に関する調査・研究に取り組んでいます。

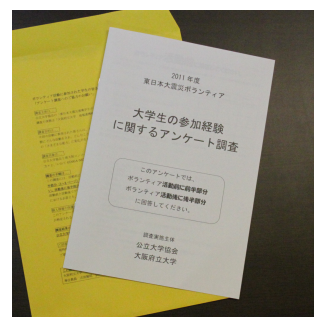
7月13日には第1回作業部会を大阪で開催し、公立大学における大学独自の学生ボランティア派遣の取組みや、派遣に向けた事前研修等の実施状況が報告され、学生ボランティアを派遣する際の問題点などについて議論を行いました。

派遣する際の問題点としては、被災地のニーズ情報の取得方法、学生の安全確保、派遣にかかる費用調達などが考えられ、被災地にある公立大学との連携を強化する必要があるとの意見の一致をみました。また、今年の夏休みの学生ボランティア派遣事業としては岩手県立大学の「いわて GINGA-NET プロジェクト」の支援を行い、同時に同事業に参加した学生に対するアンケート調査の実施を決定しました。このアンケートの目的は、災害ボランティアの経験を通じた大学生の意識の変化を調査し、今後の大学教育を考える課題として検証することです。また、学生たちの意見交換の場からも検証を進めようと、復興支援ボランティアに参加した学生によるシンポジウムを、10月2日に東京で行うことが決まりました。

第2回作業部会は9月6日に岩手県立大学アイーナキャンパスで開催し、「いわて GINGA-NET プロジェクト」の実施状況、アンケート調査の進捗状況について、経過報告を受けました。さらに10月2日のシンポジウムの内容について協議し、被災地(岩手、宮城、福島)にある公立大学の学生に続き、被災地以外の公立大学の学生の報告を行った後、報告した学生によるパネルディスカッションを行うことが決まりました。最後に学生の復興支援活動の教育的効果に関する調査・研究については、学生に対するアンケート結果を踏まえて検討を進めることとなりました。

第3回作業部会は、10月2日シンポジウム当日の午前中に開催、まず公立大学が組織として取組む事業の課題を整理するために会員校に対する調査を実施することとしました。

防災や災害復興支援に関する教育の重要性についても検討を行い、教育組織など条件が異なっても、全学的な取組みとして防災教育、復興支援教育が必要ではないかとの結論に至りました。また、日常的に活動する学生ボランティア組織の果たす役割について意見交換を行いました。最後に、災害復興時における対応も公立大学に求められる重要な役割であり、それぞれの公立大学が何にどう取り組めるのか、社会に広く発信しておくべきだとの意見もあり



学生に対し行ったアンケート用紙。合計1,000名以上から回答を得た。

ました。

東日本大震災の発生からすでに8ヶ月が過ぎようとしています。今回の被災地は広範囲に亘り、特に福島県では原発事故で復興が遅れていることもあり、被災地ではこれからも復興に向けた支援を必要としています。本作業部会は、災害復興支援における大学生の取組みの可能性と課題を大切に受け止め、災害復興支援活動から見えてくる大学教育の進むべき方向性についてしっかりと検討を進める予定です。

第3回作業部会の様子



公立大学の職員を対象に2つのセミナーを開催

7月20日(水)～22日(金)、東京・国立オリンピック記念青少年総合センターにて公立大学職員セミナーを、7月28日(木)・8月1日(月)～4日(木)には、大阪と東京をそれぞれ会場にして公立大学法人会計セミナーを開催いたしました。

各セミナーで講師を務めていただいたお二人と、職員セミナーに参加された方に感想をご寄稿いただきました。

公立大学職員育成の機は熟して来た

愛知県立大学
春日井 隆司



先の公立大学職員セミナーの壇上で、参加者の皆さんの何かをつかもうという真剣な表情やリアクションに興奮させられました。また、その後の分科会でのディスカッションやセミナー終了後の意見交換から、研修プランと実施方法をまとめることの必要性を実感しました。

多くの公立大学は設置団体からの派遣、プロパー職員、契約職員など多様な職種構成になっています。また、職員のキャリアやスキルの活用、育成プログラムが十分だとは言えません。このような環境が、職員組織の停滞や職員の孤立化、政策提案力の欠如など、組織力の低下の原因になっているのではないかと考えられます。

大学改革や特色化のために職員組織の活性化は欠かすことができません。それにはまず、多様な職員のキャリア・スキルを活用し育てることで、これはマネジメントですから、

管理職や経営者に責任がありますので、職員の育成方針や方法について各大学で十分に議論することと、個々の職員の育成プランを作成することが必要です。

職員組織の活性化の身近な方法としては、各セクションでのマニュアル作成とOJTが、どんなに忙しくても必要です。特に、ルーチンが多いセクションでは有効です。また、公立大学協会のHPの中でOJTやマニュアル事例集を掲載したり、情報交換のためのSNSも、同様な問題を抱えている大学には効果があります。

危機管理、職員の活性化、外部資金獲得、受験生確保などの課題別研修、事務局長、課長、係長などの階層別研修は、共通のテーマですから、公立大学で行うと効率的でしょう。



44名が参加した企画・総務・人事系分科会の一コマ

一方、各大学では、課題解決の中で職員を育成すれば、即戦力を身につけさせることができます。特に、ワーキンググループでの課題検討、予算や権限を委譲したプロジェクトを使い分けすることも有効です。

「職員の情熱や多様なキャリア・スキルを活かし育てるため」の具体策を教職員で議論し、育成プランを策定・実行すべき時期が来ています。

平成23年度公立大学職員セミナーの主なプログラム(敬称略)

7月20日(水)～22日(金)

- 講演「地域と連携した教育実践と公立大学職員への期待～職員の政策形成能力を活かす大学づくり」
高崎経済大学 副学長 大宮 登
- ワークショップ「公立大学職員の課題発見」
- 講演「公立大学職員の課題」 愛知県立大学 春日井 隆司
- 講演「地域が求める大学づくり～大学職員の使命とは？」 高知工科大学 福田 直史
- 分科会 (初任者分科会/企画・総務・人事系分科会/教務・学生系分科会)
- 講演「大学と地域との連携～地方行政の視点から～」 石川県企画振興部 次長 石丸 成人
- 地区別分科会(6地区) 「地域の大学職員の連携について」

会計セミナーでの講演を終えて

名古屋市立大学
内山 達雄



今年度の会計セミナーでは、各大学からの要望を受けて、初の試みとして経理担当初級者向けのセミナーを行いました。そのセミナーの講師を、協会からの依頼を受けて私が引き受けることになりました。

セミナーのテキストは、名古屋市立大学で実際に利用している研修資料を公立大学法人全体で利用できるように加筆修正して作成しました。

今回のセミナーは、名古屋市立大

学の研修資料や運用をベースとしているため、運用も異なる他大学の職員の方に本当に役立つのか、最後まで不安でしたが、実際に研修を行った後の感想では、「大学の現場目線に立っていて分かりやすかった」

「経理担当課の職員だけではなく、現場に所属している職員にも受講させたかった」等、概ね好評をいただきました。一方で、「内容の割には時間が少ない」といった意見もあり、この点については、研修内容を精査するか、もう少し講義の時間を取るか、検証する必要があるかと思っています。

今回の会計セミナーでは、準備する時間が短かったため、公認会計士

の先生方との連携は、完成した研修資料を確認していただくに留まりました。会計セミナーは、「Ⅰ 会計事務の概要」「Ⅱ 会計制度の基礎」「Ⅲ 会計事務の実際」と連続して開催されたため、研修資料作成の段階でもっと意見交換を行い、連続性の保てる研修資料が作成できれば良かったと思います。

最後になりましたが、今回の研修にご協力いただきました公認会計士の先生方や公立大学協会の皆さん、研修に参加していただいた皆さん、そしてセミナー講師としての派遣にご理解をいただきました名古屋市立大学の皆さん、本当にありがとうございました。

職員セミナー 参加者の声—本セミナーには46大学より102名の参加がありました。その感想の一部をお届けします。

●秋田県立大学 立石 真

上司に勧められ参加したので、講演や他大学職員との交流を通して多くのものを持ち帰ることができればという心持ちでいました。

今まで受けたセミナーと異なり、講演の内容やワークショップのテーマがすべて大学に関係していることをとても新鮮に感じました。中でもワークショップで、所属や雇用形態、職歴が違う方々と意見交換ができたことは、大学の特色や組織構造の違いを実感するとともに、多くのことに気が付くことができ、とても有意義でした。また、疑問に対しての有益な情報や考え方を教えていただき、セミナーに参加した意義を強めることができました。

一方で、自身の大学や所属にも目を向け、勤めている大学がどのような事を行っているのか、何が強みなのかをきちんと理解すること、そしてそれらを紹介する能力を身につける重要性和、その機会を無駄にしない努力が必要だと感じました。

今後も機会があればぜひ参加したいと思います。

●首都大学東京 谷川 美の理

「新卒・入職後3ヶ月」という時期の参加は、私にとって大きな意味がありました。

本法人職員や都内の私立大学の方との交流はあっても、他の公立大学の方々とお話をしたことはありませんでした。社会人生活はもちろん、大学職員ならではの悩みが生じ始めていた頃に、同じ公立大学の方々とお話できたことで、「公立大学」に共通の課題を知ることができ、「困っているのは自分だけじゃない」と肩の力を抜くこともできました。悩みを単なる不満で終わらせず、この先への課題として働きかけて行きたいと考えています。

各講演では公立大学をリードする事例をお話いただき、「本学に足りないものは何か」「事例に負けない本学の強みは何か」といったことを自分なりに考えるきっかけも生まれました。目の前のことから時には離れて、角度を変えて考える重要性を改めて学んだ気持ちです。

これからも他大学の皆さまとご縁を大切にし、よりよい公立大学を創って行きたいと思えます。

●山梨県立大学 倉田 洋和

この4月から大学に勤務した私にとって、今回は公立大学に関する知識を基礎から学ぶ初めての機会

でした。

初日は台風の影響で情報交換会からの参加でしたが、翌日午前の講演は、どちらも講師のわかりやすい語り口と例示とが相まって、地域連携、教職協働やSDなどに係る現状と課題が浮き彫りとなり、思わず身を乗り出して聴き入ったところです。その日の午後と最終日の分科会でも、積極的でざくばらんなメンバーからの発言を通じ、同じ悩みに共感したり、思いがけず課題解決のヒントを得ることもありました。

このような大変有意義な機会を設けていただいた関係者のご尽力に深く感謝するとともに、ここで得た知識と経験、そして人とのつながりを、今後の職務遂行に存分に活かしたいと考えています。

これからの季節、山梨では、ぶどう、ワイン、B級グルメ優勝の甲府烏モツ煮などの味覚を堪能できるイベントが開催されます。みなさんお揃いでご来県いただき、情報交換会の続きはいかがでしょうか？

●滋賀県立大学 高谷 美穂

平成21年度から開催されている本セミナーには以前から関心を持っていました。私立大学から転職した私には、公立大学ならではの状況（自治体の交付金による運営、入学者確保等の競争意識の薄さ、勤続年数の長い大学職員の不在等）を前に、今後どのように公立大学で働き、進んだらよいのか、道が見えないような不安感があったからです。

プログラムでは、大学職員として自覚を促す内容の講演と、解決策を探すワークショップを繰り返す構成で、参加者同士の連帯感と、自身のモチベーション向上の効果がありました。セミナーを終える頃には、情報収集力、ネットワーク構築力の必要性と大学職員に求められるスキルの高さを強く感じ、焦りにも似た気持ちを抱き、それはセミナーから戻った今も続いています。

一方、経歴もスキルも多彩な人材が集まる場で、公立大学に共通した特有の課題があること、それを悩みながらも大学をもっとよくしたいという情熱を持っている職員が全国にいることを知り、大変励まされました。さらに、公大協事務局の方ともお会いでき、公立大学の発展のためにサポートしてくださっていることを実感しました。

セミナーは、特に公立大学職員として働くことに不安や自身の未熟さを感じている方におすすめます。参加後には大学の発展に寄与したいと強く感じるのははずです。

●広島市立大学 伊藤 亮

大学執行部教員、自治体派遣職員、法人採用職員、自治体職員など異なる立場の方々から、事例を交えた講演をいただき、公立大学の置かれた現状を幅広く確認する良い機会となりました。

特に印象に残っているのは、大学による地域貢献の事例です。高崎経済大学大宮副学長の講演では、教員による計画策定等の行政活動への積極的な参画や学生による地域貢献活動等の紹介があり、また、石川県石丸次長の講演では、行政主催の国際イベントで発揮された教員の国際的スキルや過疎地域における学生の活動等の紹介がありました。これらの事例から、行政との信頼関係の構築や学生の地域活動に対する大学の支援等は、公立大学の使命の一つとも言える地域貢献の推進に必要な不可欠のものであって、今後重点的に取り組むべきものと考えています。また、教員、学生、行政、地域住民等のそれぞれの活動をつなぐパイプ役として、情報発信や行政との調整等の能力に長けた職員の役割は、今後一層重要になっていくものと感じました。

●宮崎公立大学 田辺 邦晃

本法人に採用され1年間の経験を積み、様々な課題を知った中で、他大学の事例を吸収したいと考え、上司に自ら志願し、参加に至りました。

今回2つの大きな収穫を得ました。1つ目は、各種成功事例の講演です。私は民間企業出身者として、大学改革の遅度に戸惑っていましたが、先駆的な大学の存在を知り、我々にも不可能はないと確信を持ってました。

もう1つは、公立大学職員同士のネットワークです。本職に就いて、過去2度、全国規模のセミナー等に参加しましたが、人脈作りは容易ではありませんでした。今回、それを可能にしたのは、主催者の入念な準備と、セミナー成功への熱意によるものに他ならないでしょう。ただ、初日、初対面の挨拶がてら参加者が苦労話ばかりを交わしていたのが気になりました。自ら反省し、翌日からは前向きな話をするよう心がけましたが、多くの大学で公立ならではの苦労があることと表れだっただようと思います。

またいつか本セミナーに参加できるならば、好事例の話で溢れる3日間になりたいです。そのために、公立大学は、横の連携を大切にしながらも、各々が縦に力強く伸びる組織になる。私たちならできる、その自信が持てるセミナーでした。

話し合いの結果はグループ全員で発表

グループセッションでは課題を整理し共有することから始めました



平成23年度地区協議会、各地区で開催される

平成23年度の地区協議会は、近畿地区(9月5日)を皮切りに開催され、例年行われている構成大学からの提案議題について協議が行われたほか、東日本大震災復興支援の取組み発表会、地域文化行政と大学との関わりについての座談会、大学職員向けのセミナーを開催するなど工夫を凝らした取組みも行われました。

各地区協議会の開催日程及び議題等

■理事会提案議案

- 一般社団法人公立大学協会定款案について
- 公立大学の東日本大震災の復旧・復興のための取組みについて
- 「国公立大学を通じた大学教育改革の支援事業」の成果について

【北海道・東北地区協議会】議長校：岩手県立大学
9月15日(木) 岩手県立大学

○協議会

- ・教員評価結果等の給与への反映方法について
- ・年俸制の導入について
- ・大学職員の育成について 他

○東日本大震災復興支援の取組み発表会
発表者

- 塩野悦子(宮城大学教授)
- 阿部正文(福島県立医科大学副学長)
- 山本克彦(岩手県立大学准教授)

【関東・甲信越地区協議会】議長校：山梨県立大学
9月8日(木) 山梨県立大学

○協議会

- ・少子化社会における、これからの公立大学のあり方について
- ・中央教育審議会教育部における検討状況 他

【東海・北陸地区協議会】議長校：金沢美術工芸大学
9月20日(火) 金沢美術工芸大学、金沢21世紀美術館シアター21

○協議会

- ・入学者の県内・県外比率について

- ・県外出身学生に対する就職支援について
- 講演「車座による座談会～地域文化行政と大学との関わり～」

講師：秋元雄史氏(金沢21世紀美術館館長)
【近畿地区協議会】議長校：和歌山県立医科大学
9月5日(月) ホテルグランヴィア和歌山

○会計セミナー

講師：大川幸一氏(公認会計士)

○基調講演

演題：「改革とリーダーシップ」
講師：橋本信夫氏(独立行政法人国立循環器病研究センター理事長・総長)

○協議会

- ・独立行政法人化後の大学改革の推進について
- ・学部学科再編の推進(社会ニーズに合わせた組織改編の進め方について)
- ・共通教育の見直しと、教養教育の再構築 他

【中国・四国地区協議会】議長校：高知工科大学
9月13日(火) 高知工科大学

○協議会

- ・地域課題解決のための研究の推進について
- ・施設の整備について

・授業アンケートの活用について 他

【九州・沖縄地区協議会】議長校：宮崎公立大学
10月5日(水) 宮崎公立大学

○協議会

- ・大学の評価事務(法人評価)について
- ・自然災害時における学生の安全確保のための取組みについて



「東日本大震災復興支援の取組み発表会」

全国公立大学設置団体協議会総会

7月7日 石川県で開催

全国から公立大学の設置団体の担当者が集う全国公立大学設置団体協議会の平成23年度総会が開催されました。

公立大学協会からは奥野武俊会長が設置者・設立団体の政策と大学改革について講演を行い、また岩手県立大学・宮野孝志企画室長が、東日本大震災後の対応と復興支援活動の現状等について発表を行いました。

公立大学協会の主な活動の記録 (H23.6.1 ~ H23.9.30) 役職名組織名は全て日付当時

6月

2日(木)★公立大学協会図書館協議会(中田事務局長講演)〔ホテル北野ブラザ六甲荘〕

8日(水)★第1回東日本大震災の復興支援についての懇談会〔岩手県立大学〕

17日(金)★県立広島大学フィールドセンター開所式(中田事務局長出席)★第1回大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議(以下協力者会議)〔学術総合センター〕

21日(火)★第1回高等教育政策検討特別委員会(協会事務局)★第2回運営会議(協会事務局)

27日(月)★第2回協力者会議〔学術総合センター〕

7月

1日(金)★看護・保健医療部会(神戸市看護大学)★大学分科会〔東海大学校友会館〕

4日(月)★公立大学実態調査表作成説明会(東京ランドホテル)★教育振興基本計画部会文科省ヒアリング・被災地域等における中長期的視点から特に重要と考えられる教育復興の在り方などについて(佐々木副会長発表)〔文科省〕

5日(火)★大学教育部会〔文科省〕

6日(水)★第3回協力者会議〔学術総合センター〕

7日(木)★全国公立大学設置団体協議会総会(奥野武俊会長講演)〔ホテル金沢〕

12日(火)★UMAPワーキングG会議〔学術総合センター〕

13日(水)★第1回東日本大震災の復興に係る学生ボランティア等に関する作業部会(以下、V作業部会)〔大阪ガーデンパレス〕

20日(水)~22日(金)★公立大学職員セミナー〔国立オリンピック記念青少年総合センター〕

21日(木)★第4回協力者会議〔学術総合センター〕

25日(月)★総務大臣宛要望書提出「公立大学が東日本大震災で被災した学生の授業料減免等の修学支援を行った場合の地方財政措置について(要望)」(奥野武俊会長、浅田尚紀副会長、中田事務局長)〔総務省〕★文部科学大臣宛要望書提出「東日本大震災で被災した学生の授業料免除等の修学支援に対する財政措置について(要望)」(奥野武俊会長、浅田尚紀副会長、中田事務局長)〔文部科学省〕★第3回運営会議(協会事務局)★第1回第2委員会〔航空会館〕★第1回第3委員会(協会事務局)★第2回理事会(協会事務局)

27日(水)★大学分科会〔文科省〕

28日(木)★公立大学法人会計セミナーⅠ①〔損保ジャパン道修町ビル〕

29日(金)★医科歯科部会〔ホテルクラウンパレス小倉〕★大学教育部会〔文科省〕★第2回就職問題懇談会〔文科省〕

8月

1日(月)~4日(木)★公立大学法人会計セミナーⅠ②,Ⅱ,Ⅲ〔メルパルク東京〕

5日(金)★第5回協力者会議〔学術総合センター〕

22日(月)★大学教育部会〔文科省〕

24日(水)★大学分科会〔文科省〕

25日(木)★第2回高等教育政策検討特別委員会(ホテル新大阪)★第2回震災復興支援特別委員会(ホテル新大阪)★第4回運営会議(ホテル新大阪)

26日(金)★第1回UMAP日本国内委員会〔学術総合センター〕

30日(火)★地域実践活動に関する大学教員ネットワーク〔政策研究大学院大学〕

9月

3日(土)、4日(日)★大学行政管理学会〔ホテル金沢、金城大学〕

5日(月)★近畿地区協議会〔ホテルグランヴィア和歌山〕★外国語学・国際関係部会〔北九州市立大学〕

6日(火)★第2回V作業部会〔岩手県立大学〕

8日(木)★関東・甲信越地区協議会〔山梨県立大学〕★大学入試センター来局〔協会事務局〕

9日(金)★第1回第1委員会(協会事務局)★文科省高等教育企画課基本課長来局★大学入試センター来局〔協会事務局〕

13日(火)★中国・四国地区協議会〔高知工科大学〕

15日(木)★北海道・東北地区協議会〔岩手県立大学〕

20日(火)★東海・北陸地区協議会〔金沢美術工芸大学〕

26日(月)★大学教育部会〔霞山会館〕

30日(金)★生活科学・環境学系部会〔ホテルメトロポリタン秋田〕

事務局より

各種の照会については、いつもご協力ありがとうございました。集計結果や回答一覧はまとも次第、メールにて発信及び協会Webに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。